

資料3

報道発表資料
平成24年10月24日
気象庁

第124回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、現在でも火口には高温の溶岩が溜まっており、火口直下の火山性地震が続いていることから、小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

霧島山（新燃岳）では、昨年9月7日の噴火以降、噴火は発生していません。

新燃岳直下の火山性地震は今年5月頃から減少していますが、8月30日に新燃岳南西1km付近で一時的に地震が増加した後、それまでよりわずかに多い状態になっています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量は、7月以降、数10トン未満で検出限界に近い状態で経過しています。

GPS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張は、昨年12月以降鈍化・停滞しています。他の領域の地殻変動データにも特段の変化は認められていません。霧島山周辺の地震活動にも、顕著な変化は認められません。

以上のように、マグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止した状態が続いています。しかし、火口には多量の溶岩が溜まっており、火口直下の火山性地震がわずかながらも続いていることから、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。

また、今後、マグマの供給が再開すれば、昨年1月下旬から2月上旬の本格的な噴火の規模に匹敵または上回る新たな噴火活動の可能性はあります。

引き続き、新燃岳火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

気象台の発表する噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。